

業スタート!

みなさんもぜひご参加ください!



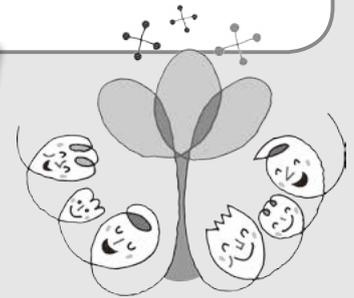
自らの心の中にある、あたたかな心の芽を育ててみませんか?

～各種コンクール ご応募お待ちしております～

感情の動きを見つめ、人の気持ちを想像する…。自らの体験をふり返り、「文章を綴る」ことは心の成長につながります。「小さな親切」にまつわる作文やエッセイを今年も募集します。

書籍になるかも?!

はがきキャンペーンの過去の優秀作品は書籍化され、シリーズ累計発行部数170万部のロングセラーとなっています。伝えたい感謝の気持ち、日常の心温まる体験、「こんな人にはなりたくない」と思った反面教師的なエピソード等をエッセイに綴ってみませんか?



第33回 はがきキャンペーン

【対象】

大人から子どもまで

【テーマ】

- ① 心から伝えたいありがとう
- ② やだな! 自分だったら…

第42回「小さな親切」 作文コンクール

【対象】

小・中学生

【テーマ】

- ① 「小さな親切」
～私のした、みた、うけた、
できなかった親切～
- ② 伝えたい日本のところ
～外国の方との出会いを通して～



審査員より

作文を書くための ワンポイントアドバイス!



童話作家
にいのゆうひこ

●自分の感動を表現しよう

親切な行いをされたときに心が温かくなったり、親切を実行するときにドキドキしたり、自分がどんなふう思ったか、素直に自分の表現で書くことで、作文が生き生きしてきます。

●体験をどのように活かすか書いてみよう

感動やドキドキ感 は心の栄養となり、あなたを成長させます。その体験をこれからどのように活かしたいかを考えて、作文に書いてみましょう。

●物まねはぜったいダメ!

「何を書いていいかわからない」という人は、感性を磨くウォーミングアップを試してみてください。例えば、あなたがおにぎりを食べる時、何人の人がそれに関わっているでしょうか。お米を作った人、それを運んだ人、加工した人……あなたが親切を受けている人は、意外に多いと思いますよ。

おとなの作文

【対象】

高校生以上

【テーマ】

- 「小さな親切」
～私のした、みた、うけた、
できなかった親切～

【問合せ・送付先】公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-20-4
TEL: 03-3263-2866 / FAX: 03-3263-3838
メール: hagaki-oubo@kindness.jp [はがきキャンペーン応募専用]

skm1963@kindness.jp [上記以外はこちら] ※作文コンクールの応募要項の発表は平成29年5月18日(木)の予定です。

各コンクールの応募要
項の詳細は、ホーム
ページをご覧ください



平成29年度事 今年度力を入れていく活動をご紹介します

しんせつさんに感謝の気持ちを伝えてみませんか？

～「小さな親切」実行章 ご推薦お待ちしております～

「小さな親切」実行章は、親切を実行した方に賞状とバッジを贈呈し、感謝の気持ちを伝える活動です。実行章を贈り、感謝を伝えるとともに人間関係を深め、学校や地域に温かな思いやりの輪を広げていくことを目的にしています。

昭和39年の発足当時から50年以上の間に、実行章を受けた方の累計は、この3月でなんと**580万人を突破**。実行章は、どなたでも推薦ができます。運動の会員でなくても構いません。皆様も、身近な「親切さん」に、「ありがとう」を伝えるため実行章を活用してみませんか？ ぜひ、中央本部や最寄りの道府県本部・支部まで推薦をお寄せください。

どんなことを推薦すればいいの？【近年の推薦例】

- 重い荷物を運んでくれた
- 道案内をしてくれた
- 通学路の見守りをしてくれた
- 公共の場所の清掃をしてくれた
- 施設の慰問活動 など



速報！580万人目決定 岩手県・宮古市立新里中学校

【受章理由】 全校生徒で、地域の公共施設を清掃
※詳細は、次号(夏号)でお伝えします

過去の 実行章受章者、コンクール入賞者の皆さん、コメントをお寄せください！

「小さな親切」実行章は50年以上、作文コンクールは40年以上続く活動です。「子どものとき実行章をもらいました」「作文コンクールに入賞しましたよ」と言ってくださる、保護者や関係者の方々にたまにお会いしますが、当時小中学生だった方もすでに50代以降になっておられます。しかし、当時の喜びは、み

なさん今でも鮮明に覚えていらっしゃるようです。

この情報誌を読んでくださっている方の中にも、そのような方がいらっしゃるかもしれません。実行章受章、コンクール入賞当時の嬉しかった思い出、その後の人生への影響など、どんなことでも構いません。皆様のコメントを募集いたします。

ぜひ、中央本部（連絡先は右記）までお寄せください。

第1回(1963年) 実行章受章 川瀬明子さん (当時小学2年生)

祖父母の家に行った帰り、抱っこされた赤ちゃんの帽子が脱げて落ちたのを拾い、追いかけて渡してあげました。ささいなことなのに皆さんにほめていただき、嬉しい気持ちと恥ずかしい気持ちがありました。その後、私は小学校教諭になりました。子どもたちには、親切



は人助けなどの大げさなことだけではなく、日常のあいさつや小さな心づかひも「親切」なんだよと教えています。

(川瀬先生は、現在「小さな親切」作文コンクールの審査もされています)

第2回(1978年) 作文コンクールに入賞 青森県本部 氣田直樹事務局長 (当時中学3年生)

東京の表彰式には行かなかったのですが、十和田支部から表彰を受けたのを覚えています。副賞の目覚まし時計は社会人になってからも使っていて、いまだに実家にあります(笑)。

またこうして「小さな親切」運動に関わることになって、ご縁があったのだなと感じています。

